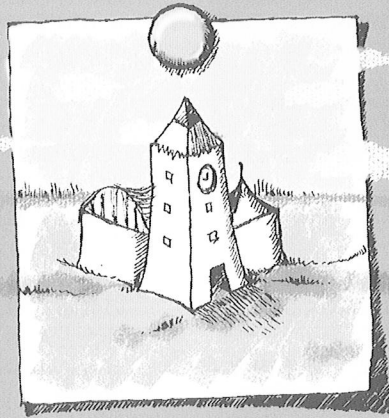


道

教

組

▶ DOKYOSO NEWS vol.520



全教 第34回定期大会終わる ～全教運動への確信を広げよう～

文科省が次期学習指導要領（案）を公表
道教組・道高教組の共同のとりくみが広がる
わたしのとっておき

全教 第34回定期大会終わる

～全教運動への確信を広げよう～

全教は2月18日～19日、東京都内で第34回定期大会を開催し、2016年度活動の総括と次年度の方針を討議し、当面の諸課題を含め意思統一しました。

道教組からは川村委員長と梶木書記長、上川教組の西野監査委員の3名が参加しました。

全教 蟹澤中央執行委員長あいさつ(要旨)



大きく3点について話されました。

1つめは、「教育諸課題と教職員の状況」について。

私たちがすすめてきた運動が、給付型奨学金制度に風穴を開けた。お金の心配なく学べる国へ前進させよう。

先日、学習指導要領案が示された。教育内容・方法・評価までの押し付けで、物言わぬ教職員づくり、教職員の思考停止につながることを指摘せざるを得ない。あらためて、1人ひとりの子どもの成長に寄り添い、「人格の完成」をめざす教育、子どもの実態から出発する教育実践、参加と共同の学校づくりの追求で、押し付け教育を乗り越えていこう。

2つめは、「憲法改悪と共謀罪に反対し、憲法を守りいかすたたかい」について。安倍首相は改憲への執念をあからさまにしている。それ自体が憲法違反。そしていま、共謀法案を強行しようとしている。戦前の治安維持法では、自由主義教育が弾圧された。共謀罪を許さないため、日教組をはじめとしたすべての教職員組合に共同闘争を呼びかける。

3つめは、「組織建設3か年計画の最終年に向けて」。昨年、「ゆいま〜る」を成功させることができた。青年の立ち上がりが始まっている。青年を励まし、すべての教職員に全教運動への確信を広げよう。

梶木書記長の発言要旨

「勤務条件改善のとりくみ」

- ①家庭訪問と教育相談も割振り対象業務に加わる。さらに、行事の事前準備が2週間前から割振り対象となる。現場の要求が実現した。
- ②部活動について、関係団体申し合わせで部活動休養日の設定や教職員の超勤縮減のとりくみを子ども・保護者に理解を広げている。そこに高文連が加わり、文化系部活動にもこれを広げるようになった。少しだが、確実に前進している。
- ③北海道も過重労働防止対策として勤務時間の把握が始まる。道教委が作成した表計算ソフトを活用して持ち帰り仕事もカウントする。道教委の会議の中で市町村立学校職員に通知しない方針だとわかった。私が「市町村立学校にも通知されるのか」と質問すると「道立学校だけ」との回答。「良い施策なので、ぜひ市町村立学校にも知らせてほしい」と要望すると、高教組や北教組からも援護射撃があり、道教委は「検討します」と回答した。
- ④「働き方改革」、文科省の「タスクフォース報告」や、私たち教職員組合がねばり強く要求し続けてきたこともあり、深い道教委が動かざるを得なかった。いま、マスコミも教職員の働き方に注目し、見直すべきだと警告している。私たちはこの追い風を生かしながら、子どもたちに心身ともに健やかで豊かな教育実践を続けられるよう、保護者との共同を大切にしながら、「教職員の勤務条件は子どもたちの教育条件でもある」ことを、諦めずに、いまこそ広げていきたい。
- ⑤教職員の生活を守るといえば「全教共済」。今年度、学習会を全構成組織で実施した経験・財産から、来年度更なる飛躍をめざしたい。

なお、新委員長に中村尚史氏が選出されました。

道教組・道高教組の共同のとりくみが広がる

道教組・道高教組は2月4日、合同会議を開催し、共同のとりくみによる成果・課題を確認しました。今後も両教組で運動の発展をめざします。

1) 人事評価制度について

【3回の交渉で私たちが求めた内容】

- ①協力・共同を壊さない制度の運用。教職員給与の水準全体の改善
- ②上位区分の公正・公平な取り扱い
- ③上位区分「B」のみの特例的運用の継続
- ④制度の検証を行うこと

【道教委の回答】

- ①②これまでと同様、公平・公正な判定を行われるよう、周知してまいりたい。
- ③「初任層とそれ以外の職員を統合したうえで、35歳以下の若年層に上位区分を重点的に配分する」という現行の取り扱いを、平成31年1月昇給まで継続する。
- ④必要な検証・改善を行っていく。

《今後のとりくみ》

- ・評価シートに「協力・共同」の観点で記入するにはどうしたらいいのか職場で論議する。
- ・「協力・共同」の観点で管理職と面談する。
- ・目的が達成されているかどうか分会・支部で話し、今後に生かす。

2) 定員・教育予算交渉について

【3回の交渉で前進した回答】

- ①割振り変更の対象業務拡大：家庭訪問、教育相談、文化祭・体育祭の事前準備は2週間前から。
- ②週休日の振替では、半日2回（4時間+3時間45分）で1日分として振替可能とする。
- ③部活動休養日の申し合わせ事項に、文化系も対象とする。

3) ゆきとどいた教育について

- ・「えがお署名」北海道連絡会で5,495筆集約。7月27日の中央行動に北海道から7名参加し、要請行動、決起集会に参加。
- ・7月24日「ゆきとどいた教育を進める北海道連絡会」総会に45名参加。街頭宣伝行動も行う。集会では、道議会議員要請、教育キャラバン継続、各地での署名行動、教育集会開催の確認。教育全国署名のとりくみ広がる。
- ・3年目の教育キャラバンで137自治体を訪問。
- ・道議会の紹介議員が31名、国会議員が5名。
- ・教育全国署名は、5万3,705筆を2月道議会に、国へは638万筆提出。

【成果】

- ・政府・文科省に給付型奨学金の具体化、来年度からの予算化を引き出した。
- ・市町村の首長・教育長との懇談で、教育条件整備の実態が分かり、共通意識も広がる。
- ・全道各地で道教組・道高教組の共同行動が広がる。

4) 全道合研のとりくみ

11月に札幌学院大学を会場に開催。参加者のべ1,115人、レポート数189本。テーマ討論、若者企画、分科会、教育のタベを実施し、学び合いが深まる。

5) 「ゆいま〜る」のとりくみ

北海道から42名（道教組10名、道高教組25名、家族6名）、全国で1,091名参加。「組織建設3か年計画」の2年目の重点的なたりくみで大いに学んできた。

6) 全国障害児学級&学校学習交流集会開催

1月7日～9日、札幌で開催。全国から約600名の参加。障教部、実行委員会が奮闘した。

全国青年教職員学習 交流集会「TANE」で 元気をもらいました

報告 内藤 修司
(宗谷教組書記長)

2月4日～5日、全国青年教職員学習交流集会「TANE」(富山)に参加してきました。

これまで「若い先生、行っておいで！」と声をかけていましたが、今回は自ら参加することになりました。

全国の学習交流集会に全教北海道から行く「アウェー感がある」ということを聞いたこともありました。実際、本州の全教の先生には「TANE」はすごく身近で、年に一度の楽しい学びの場となっているようでした。一方で、「つながることを愉しみにしている方がすごく多い学習交流集会だなあ」という印象も受けました。全体講演

の後の交流や分科会などでは「どこから来たの?」「どこも教育は大変なんだなあ」「でも、がんばらなきゃね」といった交流で盛り上がりました。

全国の学習交流集会に行けば、大阪や東京などものすごく元気な組合の存在にびっくりします。人数も元気さもものすごいです。もちろん各都道府県の全教の組織でいえば、必ずしも大勢が集っているわけではありません。しかし、集まるということが、ものすごい元気につながります。12月の「ゆいま〜る」や、1月の障害児学校全国学習交流集会から私たちは活気や元気をもらいましたよね。

「TANE」に参加して改めて集い学び合うことは元気が出ると感じました。身近な単組で、道教組で、そして時には全国とつながりを持てる教職員組合運動の良さを改めて感じました。



退職・再任用の みなさんへ

～「ごいっしょに」…道退教より～

この春、退職される教職員の皆さん、再任用で引き続いて働く教職員の皆さん、全北海道退職教職員の会(1992年発足)への加入を呼びかけます。私たちは、「楽しみをごいっしょに」「平和な世の中をごいっしょに」「ごいっしょに交流と支えあい」をモットーに、留萌管内をのぞく全道13支部がそれぞれ実情に合わせて活動しています。

「道退教」って、どんなところ?

- とりくみはおもに支部単位で行われています。
- ・親睦旅行、宿泊学習会、パークゴルフなどの楽しみ活動、「教え子を戦場に送るな!北海道の会」など平和を求める行動への呼びかけ
- ・会員数の多い支部では、サークル活動が盛んです。パークゴルフ、読書、登山、囲碁、スキー、うたごえ、政治を語る、茶道、……
- ・会員の少ない支部では、年1回の総会開催後、懇親会を行い、近況を交流したり、地域での様々

な活動を交流・激励しあっています。

- 全国組織の全日本退職教職員連絡協議会(約2万名)に加盟。毎年、全国規模の「全退教交流ツアー」や、東北・北海道ブロックでの「交流集会」も行われています。
- 年会費は3,000円(別途支部費を集めているところもあります)。

⇒加入問合せ・申し込みは、(090-2052-3020: 土井)まで



全教共済 大学学習会奮闘記

道教組共済会 小西 博光

全教の「組織建設3か年計画」の2年目に当たる今年度は、2つの重点目標を設定し、昨年度の2倍の加入増をめざしました。

1つめは、「加入対話キャンペーン」を設け、組合と共済の話をして申請用紙を提出すると、500円の図書カードを進呈することにしました。

2つめは、「全教共済大学学習運動」です。今年度、全教共済が作成した『全教共済まるごとガイドブック』を使用して、学習会をすすめました。

そのために、対話1,200名、総合共済加入者250名、学習会60回という目標を設定しました。

網走教組の夏の合宿研へ

8月20日～21日にかけて、網走教組の夏の合宿研が行われました。自家用車で向かったのは、共済会担当の小西と川上企画の小納谷部長。

20日早朝、札幌を発ち、砂川付近から土砂降りの雨に。ほとんど見通しが効かない中、比布のI.C出口付近から渋滞に。前の方でトラックが横転し、今、事故処理中とのこと。そこで、Uターンをして一般道に出、13時からの学習会にはやや遅れたものの、何とか無事到着。

しかし、合宿研会場の温根湯ホテルのすぐ横を流れる川も濁流の勢いがすごく、どんどん水かさが増してくる状態に。そんな中でも、学習会や夕食交流会は実施されました。

宗谷教組礼文支部へ

次にめざしたものは礼文支部のある礼文島へ。しかし、途中の峠は、土砂崩れの恐れがあるということで通行止め。やむを得ず遠回りになる峠を通過して行くことにしましたが、ここも道路の両脇を茶色く濁った水が勢よく流れ落ち、土砂崩れの不安を抱きながら走行。これでは、フェリーも欠航に違いないと、フェリー会社に問い合わせたところ、運行しているとのこと。確かに天候も

稚内に近づくにつれてやや穏やかになってきました。

22日のフェリーは予定通りに運行。19時からの分会長会議を香深中で行い、最初に共済学習会を実施することができました。

翌23日のフェリーも穏やかで、台風上がりの怪しい天候の中、無事、帰路につくことができました。

この間、札幌から北見、そして、稚内からまた札幌へ、距離にして約1,000km。決死の大学学習会でした。

学習会を終えて

こうして、今年度、重点として掲げた共済学習会も、40回以上実施することができました。特に、宗谷では、10支部全部で行い、さらに、稚内支部では、12の分会会議で共済学習会を行うことができました。

また、全単組、連絡会でも共済学習会を実施することができ、この学習会に参加した教職員数は約600名余りになりました。その他にも、「集い合い促進費」や「つながりづくりのための5,000円」でも7単組・連絡会から80件の報告があり、「加入対話キャンペーン」の報告も、70件以上ありました。

これらのとりくみを実現できたのも、各単組・連絡会の役員や代表者が先頭に立ち、多くの組合員が積極的に動いてくれたお陰だと思っています。

次年度では、さらに一人でも多くの組合員が、道教組と全教共済の声かけ役になっていくよう、とりくんでいきたいと思えます。

最後になりましたが、この場をお借りして、今年度ご協力くださった皆様方へ、お礼と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

春募集中です!!

春募集が2月から始まりました。「生命」「医療」「新傷害」の新規加入ができます。

その他、「総合」や「火災」などはいつでも加入できます。詳しくは、パンフレットをご覧ください。



広くまわりに声をかけ、 「全教組織建設3か年計画」の総達成を！

今年のとrikumiを振り返って

「全教組織建設3か年計画」2年目の今年は、「早期に現勢を回復し、さらに増勢をめざそう」を目標に、年間を4つの集中月間（①めぶく②はじける③かりとる④あたためる）に分け、とrikumんできました。

単組代表者会議では、「忙しいことを理由に声かけができていない」「ねばり強くとrikumめば加入に結びついた」「あなたの力を貸してほしい。いっしょにやろう！の訴えが大切だ」「組合に入っていないが共済には入っているという人に、組合加入の声かけをしていく」「学習会に誘ってきたい」などの経験が語られました。

今年の特徴は、①一部の単組だけでなく多くの単組で新しい仲間を迎えた、②昨年や一昨年に声かけてできたつながりが実を結んだ、③ベテランがこれまで培ってきた経験から「包容力」や「安心感」をいかして拡大した、などが挙げられます。

今こそ、声をかけよう！

超多忙な中で組合加入を訴える「声かけ」は、1人ひとりがバラバラにされがちな教職員を「あなたをひとりにはしない」という気持ちを伝えるとても重要なとrikumiです。教育実践のヒントをつかむことに留まらず、自分たちのおかれている環境がなぜこれほどまでに厳しいのか、日々求められる教育活動がこの先どこにつながっていくのかをともに考え、子どもたちにとって必要な教育はどんな教育で、どんな学校をつくっていくのかを

学び合える場が全教・道教組です。ともに力を合わせ、より良い働く環境（学校）をつくっていくのが教職員組合だと伝えることが、過酷な今だからこそ、求められています。

「3か年計画」の最終年にふさわしい飛躍を

次の8点を基本にしてとrikumみます。

- ①「新採総あたり」対話活動を追求します。
- ②青年教職員の要求に応える活動に努めるとともに、青年が組合活動の中で活躍できるよう工夫します。道教組青年部活動の強化、高教組青年部と共催で青年部教研の成功をめざします。また、臨教部の確立にも努力します。
- ③執行部は、1人・2人分会など少数分会で奮闘する仲間への激励を大切に、職場訪問に努め、信頼される組合をめざします。
- ④「つながりづくりの5,000円」事業、「集いあい促進費」事業の活用で、未組織教職員を誘った組織拡大・強化のとrikumiを旺盛にすすめます。
- ⑤組合員どうしの「交流・つながり」を大事にした楽しい企画を工夫し、実践します。
- ⑥単組・連絡会どうしの連携を強め、ともに学び、励まし合うとrikumiをすすめます。
- ⑦道教組全体として、早期に3月末減数の回復をめざします。さらにそこから前年度減数前組合員数の1割増をめざします。
- ⑧各組織で年度始めに拡大目標を設定し、全組合員の力合わせで拡大にとrikumみます。気軽に声かけし、組合の魅力を伝えることができるよう、組合加入と共済加入を統一してすすめます。

編集後記

道教組ニュースの作成に携わるのも最後となりました。時々の情勢、道教組や全教の課題やとrikumi、各単組・連絡会の様子、時にはみなさんの人となりが見られるコーナーなども掲載し、お伝えしてきました。

2015年3月には創刊500号を迎え、受け継がれてきた歴史の重みを実感したのを覚えています。これからもみなさんを励ます紙面であることを願っています。

ありがとうございました。（楳木）

わたしのとっておき

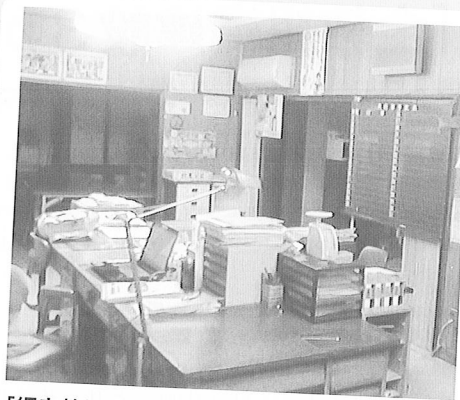
“とっておき”の写真・絵・短歌・川柳など紙面で紹介できる作品募集。頁下メールアドレスへご連絡を。



「『ゆいまーる』を機会に那覇をブラブラ」

『ゆいまーる』で沖縄に行きました。大好きな「ブラタモリ」を見てしっかり下調べもし、積極的に街歩きをしました。もずくの天ぷらと山羊料理が美味しかった！こういう風に組合運動を主体的に楽しむ姿勢が私のとっておきです（笑）

【山本 仁史（北見市西小学校）】



「網走教組の新事務所」

転居して2年目となる新事務所。冬は床暖で暖かく、夏はエアコン完備で涼しく、お風呂、シャワーも利用でき、寝袋か布団があれば宿泊も可能です。高教組、労連とも同じ建物内で、家賃も折半、連携もOK。是非、一度いらしてください。

【和田 朗（北見支援学校）】

全教自動車保険

「見積依頼」でハーゲンダッツをプレゼント！
加入するとドライブレコーダーも当たるかも！



小納谷部長
(川上企画)



吹雪のため、事故が増える時期です。冬道は、急発進・急ブレーキが危険です。安全速度、早めのブレーキ、車間距離を十分とり、安全運転に心がけましょう。

提携 東京海上日動火災
保険株式会社

全教自動車保険加入にあたっての5つの特長

- ①無事故割引を他の保険会社や一部の共済から引き継げます
- ②保険料は給料引去または口座振替
- ③ご家族の車でも、何台でも加入OK
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

手続き

カンタン

有限会社 川上企画 (道教組指定代理店)

札幌市中央区南大通西12丁目4-78 ウェスト12 1階
フリーダイヤル 0120-222-789 FAX 011-218-2472

道教組

2017年3月1日発行

発行 全北海道教職員組合 発行者 川村安浩 〒060-0909札幌市東区北9条東1丁目 北海道労働センター 3階

TEL(011)742-0101 FAX(011)742-1001 メールアドレス dokyoso@seagreen.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.dokyoso.net>